



面談に向けて (その2)

前号では、そろそろ志望校を具体的に考えてほしい旨伝えておいた。教室の後ろに受験日程の一覧も貼ったから、実際に受験することを意識しながら、「●月●日には▲▲大学の■学部、中一日おいて▲▲大学の■学部…」といった風にイメージしてみるとよい。そうすると、「初受験が▲▲大学になってしまうがそれでもいいだろうか?」とか、「第一志望だけ受験するつもりだったけど、日程に余裕があるし、もう一校くらい受けてみるか」とか、今までとは違った角度から受験を考えられるようになったりするるのである。

あまりこんなことばかりに時間をかけているのはもったいないのだが、一度くらいはまとまった時間を用意して、しっかり考えるべきである。土・日の比較的時間がある時に、ネットで調べたりしながら自分なりの計画を立て、それを保護者の方とも相談する。そういうことを、ぜひ面談前に一度やってほしい。というのも、面談の場で一から始めていたのでは、時間ばかりかかって効果的な面談にならないからである。あらかじめ考えてあるからこそ、分からないことや困っていること、自分(や家族)では決めかねていることなどが明確になって、短い時間が有効に活用されるのである。

もちろん、最終的には12月の終わりに「出願先一覧」を作る(担任はそれに従って調査書を用意する)時までには決定すればよいわけで、それまでの成績状況などによっては志望校が変化することは当然ある。しかし、変更するにしても、それはとりあえず一度決定した志望校があるからできるのであって、何もないとこからは何も始まらない。だから、

とりあえず自分の立ち位置をしっかりと決めておこうというのが、今の時期なのである。

4月から変わらぬ第一志望を貫く人もいるだろう(これが一番いいと私は思う)。一方、4月の面談時点では、何をやりたいのか絞れていなかったり、はっきりしていなかった人もいた。その人たちは、いよいよ決めなければならない時期になっている。

発想の順としては、自分が将来目指したい生き方を考え、その上で就きたい職業を意識する。そして、その職業に結びつく大学・学部を選ぶという方向になるわけだが、志望がはっきりしていない人というのは、まだ自分の将来像が見えていないということなのだろう。しかし、そうはいつでも時間は限られている。とりあえず、好きな科目・分野と関連する大学・学部を選ぶとか、大学入学後に一定期間の教養学部時代がある大学にするとか、好きな都市・地方の大学にするとか、大学院まで視野に入れることが可能な人は、大学院でやりたいことをやることにして、とりあえず家から近い大学にするとか、もう親の意見に従ってしまうとか(笑)、とにかく一定の結論を出すことである。

しかし、君たちは東京にいるのだ。家から通えて、世界的評価も日本一(アジア一!)で、授業料も安く、逆に国の予算配当は最も多いからキャンパスや施設が充実しており、総合大学としての魅力も高く、伝統と人脈が半端でない「あの大学」がすぐ近くにあるではないか! つまらぬ意地をはってはいけない。素直になれば、あの大学こそ(とりあえず)目指すに値する大学なのは明かだろう。